

企業ニュース 積水ハウス

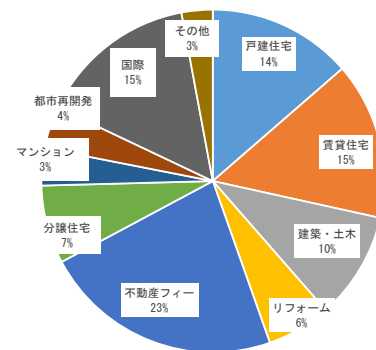
(東証プライム : 1928) <https://www.sekisuihouse.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

国内大手住宅メーカー

1960年、積水化(4204)にハウス事業設置。同年、ハウス事業を母体に積水ハウス産業設立。1963年、現在の社名に商号変更した。戸建住宅事業を出発点に賃貸住宅、住宅団地の開発、リフォーム、海外事業など住まいと環境づくりに係る広範囲な事業を展開している。太陽光発電などによる「創エネ」に加え、高い断熱構造、高効率エネルギー管理システムなどを組み合わせ、住宅における一次エネルギー消費をおおむねゼロとするZEH(Net Zero Energy House)に強みを持つ。当社技術は、2008年の洞爺湖サミットに合わせて展示された「ゼロエミッションハウス」の建設にも提供された。新築戸建におけるZEH比率は91%。ZEHは賃貸住宅でも展開している。社宅での採用がESG経営(特にS)に寄与するとして法人顧客向けでの評価が高まっている。

◇22.1期売上高構成比



(出所)積水ハウス資料よりCAM作成

資材価格高騰の影響をカバーし過去最高益更新を目指す

22.1期の連結業績は売上高が2兆5,896億円、前期比6%増、営業利益が2,302億円、同23%増。建築・土木は前年の複数の大型案件の反動減やコロナ影響などによる工事先送りの影響を受け減収減益となったが、好調な住宅需要により戸建住宅、賃貸住宅、分譲住宅などが伸長、業績をけん引した。大型リフォームに注力したリフォームも好調に推移した。ZEH提案などが奏功し、利益率も上昇している。売上高、営業利益は過去最高を更新、9月に公表した会社計画も売上高で366億円、営業利益で102億円上振れて着地した。

23.1期連結業績の会社計画は、売上高が2兆7,870億円、同8%増、営業利益が2,360億円、同3%増。全セグメントで増収、資材価格高騰が130億円の減収要因となるが、付加価値向上やコストダウンで増益を確保する方針。足元では国際情勢の不透明感から、さらなる資材価格高騰の懸念もあるが、高水準を維持しているZEH需要もあり、計画達成確度は高かろう。足元の受注状況は戸建住宅やリフォーム事業がけん引し、前期を上回る水準で推移している。

[株価動向・投資判断]

環境配慮、新生活様式など住まいに求められる新たな要望を付加価値に転嫁し利益が増加していることを評価したい。株価はPER1桁台の水準で割高感は乏しい。

<1928 積ハウス 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.1	2,446,904 (1)	186,519 (▲ 9)	184,697 (▲ 14)	123,542 (▲ 13)	181.2	84.00
22.1	2,589,579 (6)	230,160 (23)	230,094 (25)	153,905 (25)	227.4	90.00
23.1 予	2,787,000 (8)	236,000 (3)	234,000 (2)	158,000 (3)	237.0	94.00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価(2022/4/8)	2,199.0 円
年初来高値(高値日)	2,567.0 円(22/1/6)
同 安値(安値日)	2,185.5 円(22/4/8)
予想PER(23.1予)	9.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,190.4 円
PBR	1.00 倍
予想配当利回り	4.27 %
(1株当たり配当金94.00円)	
ROE(22.1)	11.0 %
発行済み株式数	68,468 万株